

# TDK、IQ BotとRPAの導入により 複雑な経理業務を約30%短縮 業務の属人化も排し 事業継続性にも寄与



## 組織の概要

TDKは、1935年に創業した世界有数の電子部品メーカーです。磁性技術の強みを活かし、「受動部品」「センサ応用製品」「磁気応用製品」「エナジー応用製品」などを軸に、高い創造性をもって成長を続け、現在では30以上の国や地域に250以上の工場、研究開発拠点および営業拠点を有し、世界の文化、産業の発展に貢献しています。

## 課題 受発注に関わる煩雑な経理業務の自動化

TDKの電子部品ビジネスカンパニーでは、多種多様な電子部品の取引に関わる業務を担う事業の中核となる組織です。売り上げ規模も全社売り上げの約半分に上り、その受発注に関わる経理業務は膨大かつ複雑です。システム上で行う管理会計業務以外に、検収や照合、注文書の取り込みなど、多くの定型業務があり、早くからRPAの導入に着目していました。

特に全社でERPを導入した際には、既存システムを廃止したために、関連する経理業務は負荷が増大したといえます。

## ソリューション 「使い易さ」と「海外展開への対応力」でRPAとIQ Botを導入

営業経理では、2019年のRPA導入にあたってツールの選定を行いました。選定にあたっては、国内ベンダーのRPAも使ってみましたが、「けっこう大変」という印象でした。また、TDKはグローバル展開をしており営業経理部門でも海外とのやり取りが多く、同じくグローバルに展開するAutomation Anywhereはサポート面でも安心感がありました。さらに適用業務を検討する中で、同社のドキュメント処理ソリューションであるIQ Botが活用できることもわかりました。実際に業務を担当しているメンバーとハンズオンセミナーなど含めて使ってみて、その使い易さを実感し、Automation Anywhereの導入を決断しました。

## メリット

1/3 軽減

経理1人あたりのPDFなど直接取り込めないデータに費やす時間的ロス

200万円削減

年間人件費1人あたり

約130

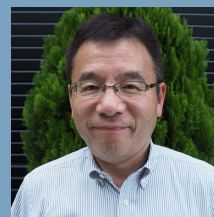
稼働中のBot数

## 自動化されたプロセス

- ・受発注に関連する経理業務
- ・CS業務

業界  
製造

「IQ Botの導入で、経理1人あたりの業務時間を1/3軽減できました。IQ Botによって得られた時間を本来“人”がやるべきクリエイティブな業務にリソースを再分配することが可能です」



— TDK  
営業経理部門  
シニアエキスパート  
菊池 栄一氏

## 詳細 段階的な適用で確実な運用を狙う

IQ Botの導入は、推進を統括するシニアエキスパート 菊池 栄一氏を筆頭に、営業経理部門1名、IT部門1名の合計3名でスタートしました。検収作業では、ひとつのテンプレートを作れば簡単に応用が効くということはありません。難しいプログラムを自分で書くということはないにせよ、ロジカルに業務を考えられ、対象業務に対する実務経験値が高いメンバーでスタートし、“全員が一斉に使えるように”ではなく、使う人と業務範囲を絞って段階的に適用することで確実な運用を狙いました。

顧客は約700社。この内EDIなどシステムによって自動で扱えるものは2/3に過ぎず、残りの約200社は紙やPDFの指定請求書など自動で取り込みができない状態でした。この約200社に関わる業務に焦点を当てて自動化をスタート。まずは検収作業でデータ量の多い50社に対してIQ Botを活用したデータの抽出とRPAによる自動化を行いました。これは、不照合が発生した際、営業に渡して修正をかけた後、金額の大小で承認依頼を行ったりする従来Excelやメールで行っていた業務になります。次にCS業務では注文書の受領、工場への納期確認、工場との各種調整、顧客への回答という一連の流れも80社に対して自動化を実現しています。

## 結果 導入2年で130のBot 経理一人当たり1/3の時間削減

導入から2年が経過した現在では、検収作業で7、受発注業務（CS業務）で123、併せて130のBotが稼働しています。その結果、従来PDFなど直接取り込めないデータに費やす時間的なロスを経理1人あたり1/3も軽減できたといえます。これは年間人件費に換算すると1人あたり約200万円もの削減効果になります。

また、自動化の恩恵はコストだけではないといえます。経理業務にかかる負荷は非生産的なものが多く、企業として付加価値を生むものではありません。業務効率化によって得られた時間を本来“人”がやるべきクリエイティブな業務にリソースを再分配することが可能です。自動化推進のプロジェクトを通して、関連部門との関わり方や相乗効果の模索など、新たな展望も見えてきたといえます。

## 今後の展望 購買部門など他部門でも展開

プロジェクト開始時点で自動化の対象となった業務は軌道に乗り、効果も検証できました。これからは17名いる他の経理担当者の業務へ転用していく予定です。また、TDKでは部門の枠を越えて購買部門など他部門でもAutomation Anywhereの利用を検討しています。今回のRPAとIQ Bot導入で得たノウハウを全社に発信し、TDK全体でのDX推進を支援していきたいと考えています。

「小さく始めて確実に進めるという意識で導入しました。RPA自体を知り、触ってみて現場にあったものを作ってみる。全社で足並みを揃えるような進め方と違い、現場主導で導入したことで上手く導入できました」

— TDK  
営業経理部門  
シニアエキスパート  
菊池 栄一氏

## Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

**デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。**

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP  [www.facebook.com/AutomationAnywhwJP](https://www.facebook.com/AutomationAnywhwJP)  [contact\\_japan@automationanywhere.com](mailto:contact_japan@automationanywhere.com)

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。